

## 千坂 峻峰 (一関市・宗教者)



ちさか・げんぼつ 45年一関市生まれ。東北大学院文学研究科博士課程中退。84年から2013年まで祥雲寺(一関市)住職。久保川イーハートブ自然再生協議会会長。

取り組もつとして。このすう勢を地方でも受け止めることが肝要であろう。

昨年は大村智博士が静岡県の土壌の菌から培養した「エバームクチン」でノーベル医学生理学賞を受賞したが、岩手県では土壌学の講師を招いてアウトリーチ(出前授業)を行ったことを聞かない(やっていた所があったらごめん

機を約300億円で打ち上げることも財政難で危ぶまれている。もはや経済の高度成長は望めなくなっている。ILCという巨大プロジェクトは財政的に実現不可能と考えるべきであろう。

水野和夫氏や藻谷浩介氏ら多くの経済学者が資本主義の終焉を感じ、経済成長を追い求める時代ではなくなっていることを説いている。

らから生物多様性に向かかと思われたが、東日本大震災に続

宇宙遠鏡「ひとみ」の失敗(人

それよりも、東北地方7国立大学などが計画している中型高輝度放射光施設(紫外線より短く硬X線よりも長い波長領域の軟X線領域専用の放射光施設、現在各国で次々建設されている)を早急に東北地方に実現し、先進的ものづくりに寄与すべきである。

# 持続可能な開発重要

く熊本の地震でその期待は吹き飛ばされた。

為ミスと想定されている)など、科学技術面でも弛緩状況が見られる。

なさい)。

歴史を振り返ると、鴨長明「方丈記」の時代(撰閣政治から武家政権成立の時代)、戦国時代から近世初頭にかけて、大震災と社会的大変革が連動している。

過去の大地震時は、実は日本だけでなく東アジアや世界の変動期でもあった。歴史に学ぶなら、国際的な動向との関連で日本の事象を捉えなければならぬ。

新聞で見える限り国際リニアコライダー(ILC)のアウトリーチばかりである。科学の発展に寄与するなら、量子宇宙論にかたよった教育方針を改めるべきである。

この施設建設費用は300億〜400億円とされている。軟X線によるナノレベルの物性解析技術の進展こそ日本が必要とするものである。

その思いで現代社会を見つめると、シャープの身売り、東芝の不正会計、三菱自動車の虚偽報告、東京五輪に関わるゴタゴタ(エンブレム、新国立競技場)、北方四島の名前を読めない政治家、金に汚い政治家など官民間問わず、あ

「国際生物多様性の10年」と設定しているほか、昨年は「国際土壌年」、今年は「国際豆年」と国際年を設定し、地球的な問題を論じている。

また、ILC誘致は日本の財政事情と望ましいものづくりのあり方などを勘案すると

ILC誘致をマチおこしのためにと始めた県であるが、発想は高度成長期のものだ。しかも、欧州合同原子核研究所(CERN)の大型円形加速器(LHC)のバージョンアップによってヒッグス粒子が捉えられ、設置は国際的に

地球の自然を大事に利用するため持続可能な開発にとどめ、タンパク質を中心とする食糧確保を世界的課題として

地球の自然を大事に利用するため持続可能な開発にとどめ、タンパク質を中心とする食糧確保を世界的課題として

得が難しくなっている」と協力的でないことが報道されている。

望望されている状況にはない。早急に誘致活動停止を決定し、早急に必要とされる施設の設置を求めたい。

## 大震災と社会的大変革の連動

いける話題が相次ぐ。

食糧確保を世界的課題として

失敗した「ひとみ」の後継

施設の設置を求めたい。